



Fact Sheet は、CBPR では「わかりやすい言葉で、定期的に、研究活動についての情報をパートナーらと共有する」ために活用します(Israel, 2005,p.298)。本プロジェクトにおいても、Fact Sheet を定期的に発行し、ANCC プロジェクト研究の進捗の概要やデータを共有し、関連するトピックや文献などからの研究成果等も含めます。

Steering Committee Members:野地有子,溝部昌子,李祥任

Steering Committee Partners:北池正,望月由紀,辻村真由子,池崎澄江,田所良之,鈴木友子,若杉歩

大友英子,西山正恵,池袋昌子,小嶋純,菅田勝也

外国人患者の診療・看護に関する資料より

報告者：溝部 昌子

本研究で予定している病院調査の準備として、外国人患者の診療・看護について行われた調査と背景について、概観する。

1. 学術誌関係

医学中央雑誌 (医中誌 Web 平成 25 年 5 月 22 日現在)

「外国人」+「患者」+「診療」→179 件
→76 件 ('09-14) →54 件 (会議録除く) →該当 49 件
「外国人」+「患者」+「看護」→257 件
→103 件 ('09-14) →59 件 (会議録除く) →該当 42 件

EBSCO Host 全データベース ('94-'14)

「international」+「patient」+「nursing」
→144 件→該当 48 件
「international」+「patient」+「language」+「communication」
→12 件→該当 10 件
「cultural」+「competency」+「nursing」→1687 件 ('84-)
→1600 件 ('04-) →1412 件 ('09-) →1199 件 ('09-)

外国人患者の診療状況をまとめたもの、看護例の報告があり、47 施設・団体をピックアップした。海外では、Cultural Competence に関連する文献は膨大にあり、学部カリキュラム、教育プログラム、CC 能力評価などで絞っても多数。

2. 医療ツーリズムに関する動向

経済産業省

09 年 1 月「サービスツーリズム
(高度健診医療分野)研究会」

10 年 2-3 月 9 医療機関実証事業

10 年 4 月「国際メディカルツーリズム調査事業」

厚生労働省 09 年 2 月医療ツーリズムプロジェクト事業

国土交通省観光庁 09 年 6 月

インバウンド医療観光に関する研究会

10 年 3 月 3 医療機関実証事業

内閣府 09 年 12 月新成長戦略

外務省・法務省 10 年 4 月「医療滞在ビザ」新設検討

日本経団連

09 年 12 月「経済戦略レポート」

メディカル・ツーリズム体制の構築

(JTB ヘルスツーリズム研究所 05 年 11 月)

政府調査研究事業、シンクタンクのレポートなどの情報が Web 上に多くあり、「世界の医療ツーリズムの動向」(日本政策投資銀行 植松佳代氏)によくまとまっている。

3. 認証制度に関する動き

JCI Joint Commission International 取得 10 病院

JMIP 外国人患者受け入れ医療機関認証制度 3 施設

4. 様々な調査事業

「平成 21 年度サービス産業生産性向上支援調査事業
国際メディカルツーリズム調査事業報告書」野村総研

「平成 22 年度サービス産業イノベーション促進事業
(国際医療交流調査研究事業)報告書」野村総研

「わが国における外国人医療の現状について」

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング

「各都道府県における医療ツーリズムの動向」

社団法人 日本医師会 11 年

「自治体国際化フォーラム」特集『医療通訳』

国内調査(医療通訳養成、電話通訳、医療通訳派遣)

海外状況調査(ニューヨーク、イギリス、フランス、

シンガポール、韓国、オーストラリア、中国、)

CLAIR 調査報告書 一般財団法人 自治体国際化協会

英国マイノリティ施策、シンガポールの医療ツーリズム

オーストラリア在住外国人のための医療通訳

平成 24 年度沖縄地域国際医療交流ネットワーク活動事業

「外国人患者受け入れに関する現状調査報告書」

万国医療津梁協議会

平成 22 年 3 月厚生労働科研

「国際医療交流(外国人患者の受け入れ)への

対応に関する研究」遠藤弘良氏

「外国人患者受け入れのための病院用マニュアル」☆

岡村世里奈氏 国際医療福祉大学医療経営管理学分野

3 つの論点

① 産業としての価値、マーケット動向、日本の強み

ビジネスモデルの検証、必要な準備

② 国民皆保険制度の維持

③ 多様な国籍、言語、人種に対する医療、多文化共生

☆看護について多施設で行われた調査は 2 件

5. 活躍している団体

CLAIR 一般財団法人 自治体国際化協会

SHARE 特定非営利活動法人

シェア=国際保健協力市民の会

AMDA 特定非営利活動法人 国際医療情報センター

自治体にある国際交流協会

医療通訳士の各種団体、勉強会

6. 外国人のための医療提供への課題

- ① 事前の診療情報の提供
- ② VISA 渡航手続き
- ③ 設備
- ④ 言語医療翻訳士
- ⑤ 支払い
- ⑥ 病院マナー

外国人患者受け入れ、病院の国際化にあたっては、経産省、厚労省、国交省の支援・資料、病院向けコンサルティング、世界の医療ツーリズム幹旋業者とその団体や実際に携わった関係者からの報告で上記のような6つの課題があった。

7. 外国人患者の看護に関する調査

検索結果、外国人患者の看護に該当したもの全て
(文献名省略)

1. 救急外来での外国人患者の受け入れ
2. 助産師外来での外国人妊婦へのかかわり
3. 外国人患者への糖尿病療養指導
4. 外国人患者の白内障手術
5. 精神科での外国人患者とのコミュニケーション
6. 精神科での外国人患者の看護
7. 外国人患者の血液透析での音楽療法の活用
8. 外国人高齢者へのデイサービス
9. 多言語会話アプリ
10. 医療機関の外国人受け入れの課題
11. 外国人患者への糖尿病看護
12. 移民ヘルスリテラシー
13. 外国人患者の結核の認識
14. 外国人、聴力障害患者への内視鏡検査
15. 保健所の外国人結核患者支援体制づくり
16. 地域における外国人医療の状況
17. 外国人患者の周術期管理に関する看護
18. 遠隔医療通訳サービス
19. 医療の多文化化
20. メディカルツーリズムの現状と課題点
21. 外国語で受診できる診療所
22. 外国人対応に関する基礎知識
23. 外国人妊産婦の育児
24. 外国人結核入院患者の看護
25. 外国人入院患者の心理
26. にわか通訳者に関する課題
27. 外国人患者のコミュニケーション
28. 外国人患者との関係構築
29. 文化的背景を理解した外国人結核患者の対応
30. 文化的背景を理解した外国人結核患者の対応
31. 外国人の性格気質
32. 外国人患者への術前訪問とコミュニケーション
33. 外国人患者の妊娠
34. 外国人患者への接遇
35. HIV 外国人妊婦の看護
36. 国際医療帰省患者の搬送
37. 眼科外来の外国人患者の治療完了率
38. 国際化への取り組みと患者サービス
39. 母子施設の外国人小児と母親への退院指導
40. 外国人患者への手術室での会話カード
41. 外国人結核患者の帰国
42. 公立病院 157 外国人患者のケア 61%回収

外国人患者のコミュニケーションが障害となったものとして、妊娠出産育児、結核療養、糖尿病療養、精神科患者との関係構築、手術を受ける患者の看護などがあつた。特定の民族に対する理解や配慮、接遇のポイントなどを示したものがあつた。

病態や疾患の特殊性からくる看護の特徴と患者の多様性を関連付けて示すものが多かつた。白内障での点眼の指導、糖尿病の食事、薬物療法の指導、精神科領域での患者-看護

師関係の構築に基づいて行われる看護、小児腎疾患に対する母親を含めた指導などのようなもの。

8. 病院調査対象病院の検討

- ① (参考)「病院調査」「医療施設」「病院管理」のキーワードから病院を対象とした調査の対象抽出方法をレビューしたもの
無作為抽出法:病院要覧から 1/3 等間隔抽出法
東北・関東の全県全病院
外科学会指定
当該医療施設と同医療圏
救急
小児
全国基幹病院
褥瘡学会認定薬剤師
- ② (参考)公益財団法人日本医療機能評価機構
認定病院 2327 施設
- ③ (参考)病院要覧 約 65 万円
- ④ 日本語文献にある 47 施設
- ⑤ HIV 拠点病院 65 施設
- ⑥ 結核拠点病院のうち 50 施設
- ⑦ 大学附属病院 170→約 110 施設
- ⑧ 外国人登録者数が多い都道府県
- ⑨ 外国人登録者数が多い自治体 約 200 施設
- ⑩ JCI 認定病院 10 施設
- ⑪ JMIP 認定病院 3 施設

多施設の看護について調べた大規模な調査はない。外国人患者の受け入れ実績のある医療機関での対応や準備状況、文化看護への取り組みを調査することを目的に適した調査対象にたどり着く必要がある。

併せて、Cultural Competence に関して理解を深め、調査内容の具体的項目やその結果の示し方についても検討していく。

News

1. 5月24日国際ケアリング学会で野地有子が「Caring for Woman Globally: Preparing Instruments for Use in Cardiovascular Recovery」について発表しました。
2. 6月に九州の3病院で聞き取り調査を実施予定です。
3. 平成25年3月国際シンポジウム収録集を日本語対訳版で作成中です。近日発刊予定です。
4. 病院調査の対象施設を選定しています。
5. Dr.Gonzales よりメッセージ
サンディエゴ空港で搭乗直前に体調不良のため訪日を見合わせる事になり残念です。ご予定いただいた先生方によりしくお伝えください。